

年間第 16 主日 (ルカ 10:38-42)

マリアは良い方を選んだ



司祭館西側に、今年もゴーヤを植えました。同じ場所に、オクラも植えました。「植えた」と言いましたが、私が植えるわけではないので、正確には「植えてもらいました」です。水やりは、いちおう私の仕事です。雨が降らないかなあ。

一つ学習しました。オクラの実は、まっすぐ育つのですね。葉っぱが茂って、見落としていたのですが、もう食べ頃を過ぎてから実に気付きました。その場かじってみたら、繊維が固くなっていて、いくつかはおいしく食べられませんでした。

ゴーヤはまあまあのタイミングで収穫できたので、下ごしらえして卵と合わせて炒め物にしておいしく食べています。小学生中学生の皆さんここでクイズです。ゴーヤの下ごしらえのために、縦半分に割って、中のわたを取り出しますが、このとき北斗神拳を使って取り出します。気合いを入れるとき、どんな声を出すか分かりますか？「わた！わた！」です。

まあ、今日の説教はこれで終わったようなものですが、ここから北斗神拳よりも「真剣に」福音のお話をします。イエス様がマルタとマリアの家に迎えられました。マルタは、おもてなしをしたかったので忙しく働きました。マリアはイエス様のそばにじっと座って、話に聞き入っていました。

マルタはおもてなしの手伝いをしないマリアを不満に思っています。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」(10・40)

けれどもイエス様の返事は意外でした。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」(10・41-42) イエス様の返事に、見落としてはいけない大切な言葉がありました。

気が付いたでしょうか。それは、「マリアは良い方を選んだ」という言葉です。「選んだ」と言っています。「何かと何かがあって、どちらか一つを取る」というのが「選ぶ」ということでしょうか。マリアは「何」と「何」を比べて選んだのでしょうか？

お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんは気が付いていると思います。マルタのようにおもてなしをたくさんしてあげることと、イエス様のそばにいて、じっくり話を聞くことと、この二つを比べて、話をじっくり聞く方を選んだのです。

マルタはどうだったのでしょうか？マルタは選んでいないのかも知れませんが、「おもてなしをすること」この一つだけが頭に浮かんで、忙しく働いたのだと思います。「一つだけ」しか考えなかったら、「選ぶ」

ことはできません。これは私たちにも大切なことを教えてくれているのです。私たちもいくつか考えてみて、その中の良い方を選ぶことが大切なのです。

夏休みがもうすぐ始まります。思いっきり遊びたいでしょう。けれども「思いっきり遊ぶ」この一つだけしか浮かんでいない人は、選ぶことができなくなってしまうですね。もしかしたら、「思いっきり遊ぶ」この一つの考えに、縛られているのかも知れません。縛られている人は、自由な人ではなくて不自由な人です。

「思いっきり遊ぶこと」のほかに「時間割を決めて過ごすこと」も考えてみましょう。少なくとも二つ考えたなら、どちらかを選ぶことができます。両方を比べて、「良い方を選んだ」とき、あなたの夏休みはすばらしい夏休みになるでしょう。

こんなことを別に中田神父が言わなくても、お父さんお母さんが子供に言えば済むことです。むしろ中田神父が言っても、右から左に通るだけかも知れない。今日ここに集まった保護者の皆さんは、「マルタとマリアをごらん」と言って、「マリアは良い方を選んだよ。あなたはどうする？」と諭すことができます。立派な福音の伝達ができる機会を、みすみす逃さないでほしいと思います。

きっとすべてのことに、この教訓は活かせるでしょう。一つしか頭に浮かんでいない人は、「岐路に立たされている人」でさえありません。選択肢を持たずに、ただ一つのことに縛られている不自由な人です。イエスが「必要なことはただ一つだけである」と仰ったのはどんな意味でしょうか。「選ぶ」ということだったのでないでしょうか。

私たちは一つの考えだけに縛られてはいけません。イエスはたった一つのこと、「選ぶ」大切さを示されたではありませんか。もし、「これしか正解はない」と考えて行き詰まっているなら、イエスのそばにじっと座って、果たしてそれは自由に選んだ答えなのか、考えてみることです。主のもとに座って話に聞き入るなら、私たちもきっと「良い方を選ぶ」ことができるに違いありません。